

相談支援つうしん

<第 85 号>2022 年 12 月 20 日
県立湘南養護学校 支援連携部
相談支援係 ～教師編～

今回の「相談支援つうしん」は、小学部で行った AAC 研修について報告します！

<第 1 回 ～身振りサインをおぼえよう！～> 1 学期

本校では、授業名や日常でよく使う単語や身振りサインとシンボルマークを設定しています。（「湘南養護ブランド集」より）小学部の授業名、曜日などの身振りサインについて実際に手を動かしながら確認しました。

<第 2 回 ～PECS マンがやってきた！！～> 9月5日（月）

PECS は、絵カード交換式コミュニケーションシステムの略で、音声によるコミュニケーションが難しい人にとっての拡大・代替コミュニケーションの一つです。（「湘南養護ブランド集」より）絵カードの意味が理解できなくても指導を始められます。

まずは、子どもが“〇〇を欲しい！”と思ったときにカードを渡すと相手に伝わることを学習します。実際の指導の方法を寸劇にして相談支援係が演じました。カードを受け取って欲しいものを手渡す「コミュニケーション・パートナー」と子どもがカードを手渡す動きをスムーズにできるように支援する「プロンプター」の 2 人で指導します。指導者役の 2 人が、失敗事例を演じてしまうと…PECS マンが登場！指導のポイントを伝授して去っていきました。さて、指導者 2 人の指導のポイントとは

<コミュニケーション・パートナーの役目>

- その 1 子どもが欲しがるように誘う
- その 2 子どもが欲しいものと 0.5 秒以内にカードと交換する

<プロンプターの役目>

- その 1 子どもの自発的な動きを待つ
- その 2 子どもがカードを交換するのを身体的に支援する

詳しくはマニュアルをご覧ください。第 1 職員室前 相談支援ロッカー内にあります！

<第 3 回 ～絵カードを使ったコミュニケーション指導の実践～> 11 月 9 日（水）

数年前に本校小学部の各学年で取り組んでいた指導の動画を見ました。1 年生が初めてカードを使って要求を伝える給食場面の動画では、児童がカードを渡す動作を学んでいく過程がとても解りやすく映っていました。上級生はカードを使いながら身振りサインや発語も使って、食べたいものを要求していました。また、ピアノを弾いて欲しい、トイレに行きたいなどの要求を伝える場面も見ることができました。

カードの形態はラミネートしたものを使うことが多いですが、手指の巧緻性に課題がある児童には段ボールや木片を使って厚みをつけたり、握りやすく大きめにしたり工夫がされていて参考になりました。破損したり、失ったりすることもあるので同じカードは数枚用意しておくとういと思います。